

水産研究所への組織改革にあたって (「水試だより」から「水研だより」へ)

徳島県立農林水産総合技術センター水産研究所長 喜内 浩

農林水産部の試験研究機関は、従来各専門分野別の組織として県内農林水産業振興のため、さまざまな課題解決に、取り組んできました。しかし近年水産業を始め一次産業を取り巻く状況は急速に変化し、地域振興、森林・農地・水域を通ずる自然循環機能の高度な利用技術の開発など、農林水産業のすべてを包括して解決しなければならない問題が増加しています。

それらの課題を解決し、高度・多様化する県民ニーズに柔軟かつ速やかに対応するためには、課題の重点化を図るとともに、それぞれの研究所が持つ能力を最大限に活用しながら専門分野を越えた取り組みを行う必要があります。

今回の改革では農林水産部として総合的研究を効率的に推進するため、部内の 6 試験研究機関を統合し、徳島県立農林水産総合技術センターへ組織換えしたものであります。

従来の縦割りから横断的組織としての連携を考えて試験研究機関が地域振興に果たす役割は重要なものがあります。

徳島県水産試験場は平成 13 年 4 月の組織改革で徳島県立農林水産総合技術センター水産研究所になりました。

水産研究所は従来の科制から、「総務担当」・「海洋資源担当」(海洋観測、漁海況予測、プランクトン調査及び資源評価、資源管理に関する研究)・「増養殖担当」(魚介藻類の増養殖・生理生態、及び魚病診断防疫技術に関する研究)・「環境増養殖担当」(魚介藻類の増養殖・生理生態、及び環境調査に関する研究)の 4 担当制になりました。

また、農林水産総合技術センターとして解決すべき重点的研究課題を各研究所と連携しながら、横断的かつ積極的に推進してまいります。さらに、水産資源の持続的利用及び漁場環境並びに生態系保全などを目指して研究を推進する所存でありますのでよろしくお願い致します。もとより試験研究の成果は、短期間に得られることは少なく年月をかけた地道な努力の積み重ねが必要であります。他方、その成果を迅速に、広く情報発信することは試験研究機関に課せられた責務であります。この改革を契機に皆様方の尚一層のご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。